SEP 2015 №.3

日本創造学会
JCSNEWSLETTER

第37回日本創造学会研究大会

大会テーマ:
「わくわく大学、きらきら企業の創造力」

10/3（土）10/4（日）会場:大阪経済大学

樋口克次
大会実行委員長

徐　方啓
副実行委員長

樋口健夫
副実行委員長

本年度の研究大会は初の試みとして、わくわく大学ときらきら企業から2本の素晴らしい講演会と、3つ(選択制)の最新鋭のワークショップ体験が組まれております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

〈特別講演〉10/3(土)　13:00～14:30(予定)

「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」

世耕石弘氏　近畿大学広報部長

●世耕石弘プロフィール●

1992年に大学を卒業後、近畿日本鉄道株式会社に入社。以降、ホテル事業、海外派遣、広報担当を経て、2007年に近畿大学に奉職。入学センター入試広報課長、同センター事務長を経て、2013年4月に広報部長代理、2015年4月より広報部長、現在に至る。

〈基調講演〉10/4　13:00～14:30(予定)

「輝く企業のCSRと創造性」

立石信雄氏　元オムロン㈱会長

●立石信雄プロフィール●

同志社大学卒業後、コロンビア大学経営大学院留学、1959年 立石電機(現オムロン株式会社)入社、1995年代表取締役会長、2011年特別顧問(2013年まで)公職として、日本経済団体連合会の国際労働委員会委員長ほか多数歴任。各種委員会委員長多数、政府関係委員多数歴任。同志社社友。

〈WORKSHOP〉10/4(日)　14:40～16:30(予定)

●WORKSHOP 1　車いすとスマートフォンを使ったリアルゲームのデザイン
講師：木原宏典氏、永井由佳里氏

●WORKSHOP 2　モニターを利用した双方向討論の提案
講師：樋口克次氏

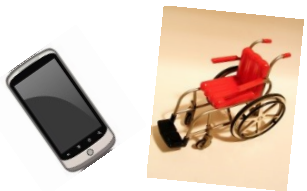
●WORKSHOP 3　思考を書き留める習慣　人生を変えるアイデアマラソン発想システム
講師：樋口健夫氏

WS詳細は次ページ

〈WORKSHOP〉

３つのワークショップの中から選んで参加することが出来ます。

●WORKSHOP 1



車いすとスマートフォンを使った リアルゲームのデザイン

講師：木原宏典氏、永井由佳里氏

[ワークショップの概要]

福祉用具の車いす。身近な存在となったスマートフォン。この２つを組み合わせたリアルゲームのアイデアを出してもらいます。車いすが持つ真面目なイメージの枠を超えるようなアイデアや、ゲームを楽しんでいるうちに車いすが抱える問題を解決できるようなアイデアを見つけて欲しいと思っています。（ボランティア的な限られた参加者だけでなく、誰もが参加したくなるような仕組みや何度もしたくなるような継続性を持たせたい。）

ゲーム利用者には、例えばこんなことを得てもらえたらと想定しています。

●車いすを体験し、大変さを知る
●車いすを扱うポイント･コツを知る
●改善点･改良点のアイデアが生まれるかも
●新しいタイプの車いすが生まれるかも
●車いすのネガティブなイメージを変えていきたい
また、副次的な効果として
●車いすが通る事ができる道データの蓄積
など、別の視点からの可能性探しも期待しています。

木原宏典
フリーランス
プログラマー

永井由佳里
北陸先端科学技術大学院
大学知識科学研究科教授
日本創造学会評議員

●WORKSHOP 2

モニターを利用した双方向討論の提案

講師：樋口克次氏

[ワークショップの概要]

新聞記事をベースにした2つのプレゼンテーションに対し、コメンテーター並びにフロアからPC端末やスマホ、紙媒体を利用して質問を受け、モニターに表示して議論を行います。

1本目は教育改革です。プレゼン後に学生からコメントを受け議論を進めます。提起された質問はモニターに表示され、参加者全員が質問を確認、共有しながら議論を展開します。紙媒体の質問には書画カメラを利用します。説明や解答についても可能な限りモニターを利用します。

2本目は経営問題です。プレゼンのテーマは企業再編問題です。質問のモニター表示に加え、プレゼン中でも質問を受け付け、報告中確認して答えるよう努めます。議論の際の追加の質問など、質問の随時性を重視します。

大学教育に求められる双方向性を、質疑応答の随時性と質問等討議内容のモニター表示によって実現しようとします。

この形式では質問や意見は短文となります。論点の明確化と可視化を通して議論の一体性も高まります。

樋口克次
大阪経済大学教授
日本創造学会会員

樋口克次　Profile
大阪市立大学経営研究科博士課程単位取得退学
大阪経済大学経営学部教授（担当証券市場論、メディアリテラシー）
『社会経営学のすすめ－甦るキャンパス－』（２名共著）
「企業と金融システム」『日本の企業間関係』（第９章）
「間接金融としての投資信託」
「大学における新聞利用のあり方」
「新聞と大学教育」などＮＩＥ関連論文
所属学会、証券経済学会、日本ＮＩＥ学会、日本創造学会

●WORKSHOP 3

思考を書き留める習慣
人生を変えるアイデアマラソン発想システム

講師：樋口健夫氏

［ワークショップの概要］

アイデアマラソンは、ノートとペンがあれば、だれでも、いつでも、どこでも実行可能です。多数の研究所、企業、大学、小学校、そして幼稚園・保育園で実施されています。発明、企画、芸術などに活用可能です。

1. 最初の30分間は、なぜ思考を即書き留めること、それを毎日継続することが大切か、仕事や人生に大きな影響とツキをもたらすかを話します。アイデアマラソンの簡単なルール、その習慣化の効果を説明します。

2. 残りの1時間は、アイデアマラソンを実際に実行しましょう。実際に脳を動かし、発想を出し書き留める体験の時間です。自分の創造性に自信を持てます。

アイデアマラソンは、樋口健夫が1984年に考案し、自らが継続実施してきたもので、すべての思考法の基盤として活用できます。ぜひとも体験してください。

樋口健夫
アイデアマラソン研究所所長
日本創造学会理事

樋口健夫　Profile
博士（知識科学）
大阪外国語大学（現 大阪大学）卒業、三井物産33年間勤務、海外駐在21年
北陸先端科学技術大学院大学講師
アイデアマラソン研究所　所長
TTCT（トーランス式創造性思考テスト）日本国内実施権
ジョージア大学トーランスセンター国際アドバイザー
著書：　仕事ができる人のノート術（東洋経済新報社）
　　一冊のノートで始める力続ける力をつける（こう書房）
1984年からのノート数　442冊
記録発想数　41万個

■■■■■ 大会要項 ■■■■■

参加方法　：　学会事務局までメールまたはFAXで参加申込書をご送付ください。
　　参加申込書は学会ホームページからダウンロードできます。
発表申込　：　申込書をご記入の上学会事務局までメールまたはFAXで送付下さい。
日　程　　：　2015年10月3日（土）～4日（日）
参加費　　：　正会員3,000円、学生会員2500円、非会員4,000円（事前振込みの場合）
　　正会員4,000円、学生会員3,000円、非会員5,000円（当日参加の場合）
　　10月3日または4日のどちらか1日のみ参加したい場合は、資料代の1000円で参加できます。（事前振込1000円、当日1500円）
会　場　　：　大阪経済大学大隅キャンパス（所在地：大阪府大阪市 東淀川区大隅2−2−8 ）
内　容　　：　講演会・ワークショップ・懇親会・研究発表など
申込締切　：　9月18日　※研究発表の申込受付は終了しました。

◆懇親会のご案内◆
会　場：　大阪経済大学学E館7階　ロビーラウンジ（キャンパス内、C館より徒歩5分）
参加費：　3,000円
全国の創造性研究者と情報を交換し、親睦を深めましょう。多くの皆様のご参加をお待ちしております

2015年度会員総会開催のお知らせ

2015年度会員総会を10月3日17時30分より開催致します。
会員総会は全会員の参加が基本です。
参加できない場合は、学会より送付される往復葉書の返信にて、期日までに委任状をご提出下さい。

【大会会場】 大阪経済大学 大阪府大阪市 東淀川区大隅2−2−8

※大阪経済大学は新幹線の新大阪駅から数駅、首都圏からのアクセスもよく、便利な場所にあります。大阪駅から大阪経済大前までの直通バスルートもあります。

電車でのアクセス

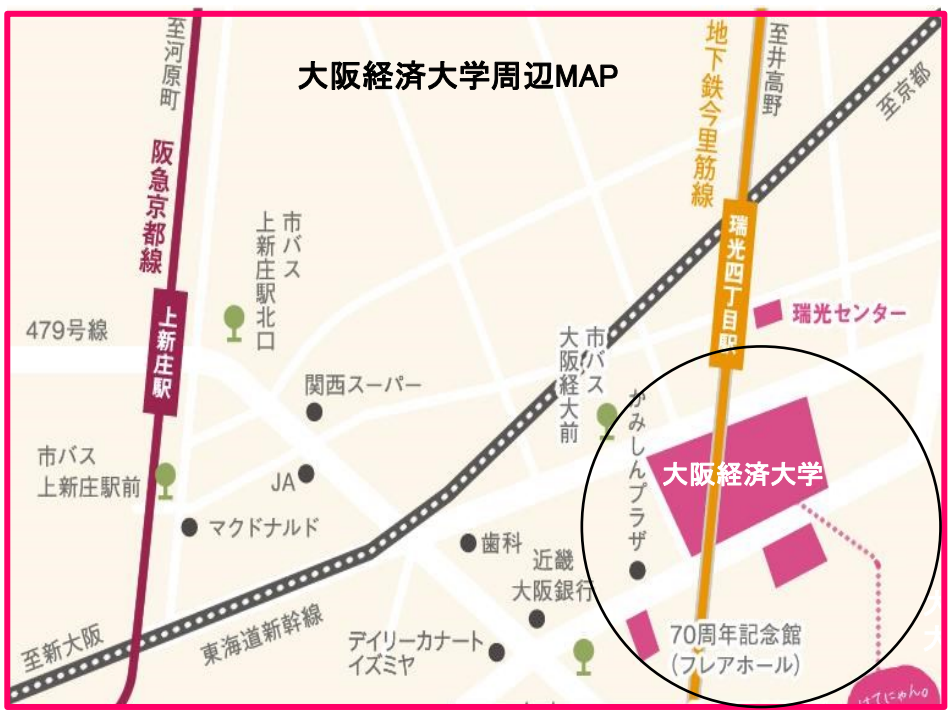
◎阪急京都線「上新庄」駅下車 徒歩約15分
◎地下鉄今里筋線「瑞光四丁目」駅下車 徒歩約2分

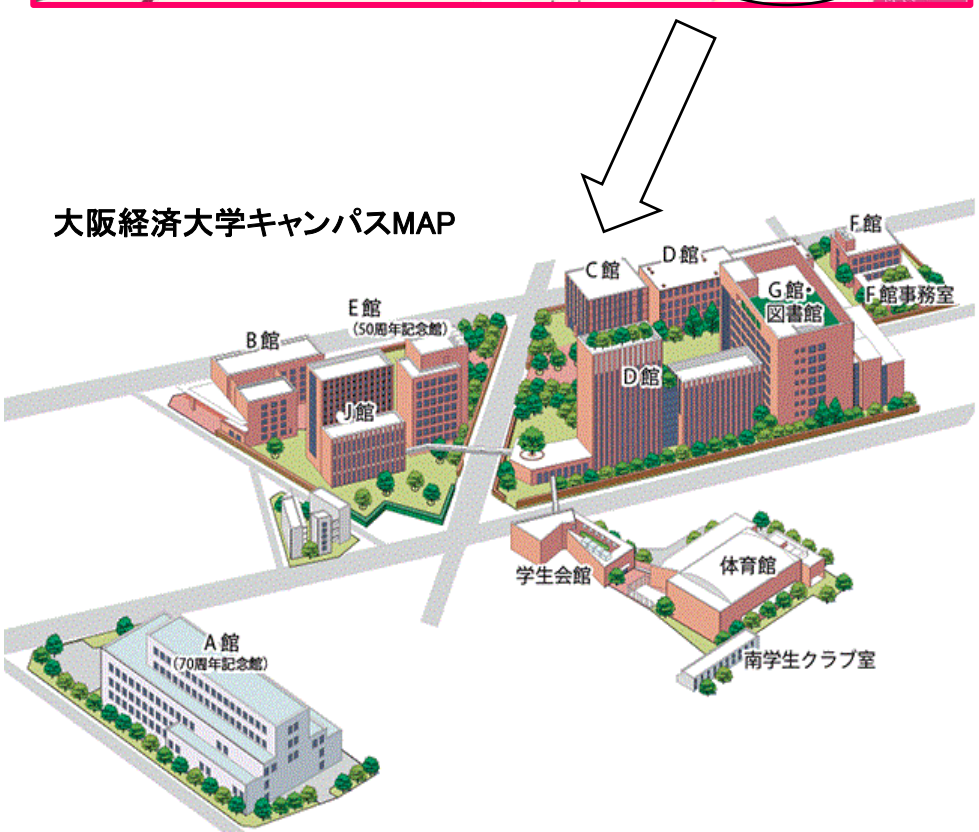
※新大阪駅からは御堂筋線で西中島南方（1駅）下車、阪急京都本線へ乗換、南方駅より（3駅）上新庄駅へ

阪急京都線「上新庄」駅より大阪経済大学まで

1.徒歩(約15分)
2.「上新庄」北口より市バス37・93系統
3.「上新庄」南口より市バス37B系統
2.3.ともに【井高野車庫前】行、「大阪経大前」下車

※ご宿泊につきましては、次ページ一覧をご参考に、個人でご予約をお願い致します。この時期ホテルは混み合いますので、早めのご予約をお願い致します。





宿泊ホテル情報 ※ご予約は個人でお願い致します。

大阪経済大学に行くのに便利なホテル一覧です。
このシーズンはホテルが大変込み合いますので、早めのご予約をおすすめします。

ホテル名	住所・電話・ホームページ	アクセス	料金			予約方法	本学までの交通手段	所要時間
大阪ガーデンパレス	大阪市淀川区西宮原1-3-35 TEL 06-6396-6211 http://hotelgp-osaka.com	JR・地下鉄 新大阪駅 徒歩8～10分 送迎バスあり	1泊 室料のみ (朝食別¥1,200) タクシー送り付	シングル ¥7,000	ツイン ¥13,500	電話 ホームページ	・地下鉄+阪急+徒歩 ・タクシー	約30分 約25分
ホテルコンソルト	大阪市淀川区西中島1-12-7 TEL 06-6304-1511 http://www.consort.co.jp	阪急京都線 南方駅 地下鉄 西中島南方駅 徒歩1分	1泊 室料のみ 1泊 朝食付き	シングル ¥5,500 ¥6,000		電話	・阪急電車+徒歩 ・市バス	約25分 約25分
ホテルクライトン新大阪	大阪市淀川区西中島2-13-32 TEL 06-6885-1211 http://www.claiton.co.jp/shin-osaka	阪急京都線 南方駅 地下鉄 西中島南方駅 徒歩3分	1泊 朝食付き	シングル ¥10,800	ツイン ¥18,000	電話	・阪急電車+徒歩 ・市バス	約25分 約25分
ホテルオークス新大阪	大阪市淀川区西中島1-11-34 TEL 06-6302-5141 http://www.h-oaks.co.jp	阪急京都線 南方駅 地下鉄 西中島南方駅 徒歩2分	1泊 室料のみ 1泊 朝食付き	シングル ¥5,000 ¥5,900	ツイン ¥8,500 ¥10,100	電話	・阪急電車+徒歩 ・市バス	約25分 約25分
ヴィアイン新大阪	大阪市東淀川区西淡路1-7-7 TEL 06-6327-6111 http://shinosaka.viainn.com/	JR新大阪駅東口 徒歩2分 阪急京都線崇禅寺駅 徒歩10分	1泊 朝食付き	シングル ¥6,500 (税込)	ツイン ¥12,400 (税込)	電話	・地下鉄+阪急+徒歩 ・阪急電車+徒歩	約40分 約30分
プラザオーサカ	大阪市淀川区新北野1-9-15 TEL 06-6303-1000 FAX 06-6303-0550 http://plazaosaka.com/	阪急電鉄十三駅 徒歩5分	1泊 室料のみ 1泊 朝食付き 1泊 2食付き	¥8,000 シングル ¥9,000 (税別) ¥12,000	¥12,000 ツイン ¥14,000 (税別) ¥20,000	電話 FAX	阪急電車+徒歩	約30分
ホテル・アゴーラ大阪守口	守口市河原町10-5 TEL 06-6994-1111 http://www.hotelagora-moriguchi.com	京阪電鉄守口市駅 徒歩1分	1泊 室料のみ 1泊 朝食付き	シングル ¥8,000 ¥9,000	ツイン ¥12,000 ¥14,000	電話	京阪+地下鉄+徒歩	約30分

ホテルオークス新大阪、ホテルクライトン新大阪、ホテルコンソルトなどが大経大前バス停まで市バス利用可能で便利です。

大会全体スケジュール(予定)

10月3日(土)1日目

時間	プログラム
9:30～	受付開始(C館1階入口)
9:55～	開会挨拶
10:00～11:30	研究発表 (C館5階教室) (発表20分質疑5分交替5分)
11:30～13:00	昼休み・役員会
13:00～14:30	特別講演(C館3階中ホール) 「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」 近畿大学広報部長 世耕石弘氏
14:30～14:40	休憩
14:40～16:10	研究発表 (C館5階教室) (発表20分質疑5分交替5分)
16:10～16:25	休憩
16:25～17:25	研究発表 (C館5階教室) (発表20分質疑5分交替5分)
17:30～18:00	総会・学会賞表彰式(C館3階中ホール)
18:00～18:05	日本創造学会西日本支部会合
18:20～20:00	懇親会 (学内E館7階)

10月4日(日)2日目

時間	プログラム
9:45～	受付開始
10:00～12:00	研究発表 (C館5階教室) (発表20分質疑5分交替5分)
12:00～13:00	昼休み
13:00～14:30	基調講演(C館3階中ホール) 「輝く企業のCSRと創造性」 オムロン㈱ 元会長立石信雄氏
14:30～14:40	休憩
14:40～16:30	最新発想法概要とワークショップ
16:30	閉会挨拶

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。

10/3役員会スケジュール
11:30-12:00 評議員会(評議員)
12:00-12:45 合同役員会(評議員・監事・理事)

10月3日（土）研究発表スケジュール（予定）

※発表会場は3日は2会場、4日は3会場になります（於：C館5階・6階教室）

A会場

10:00-10:30	江崎通彦	道徳教育の指導方法の一方策として「知識から知恵を創りだす方法」を使う	NPO法人：DTCN知識から知恵を創りだす方法協会
10:30-11:00	西浜クリス	日本人とアメリカ人がもつマネージメントと創造性の違いと特徴について	名古屋経営短期大学・NPO法人DTCN知識から知恵を創りだす方法協会・四天王寺大学
11:00-11:30	樋口容視子	創造性と柔軟性に満ちたネパール人の日本語習得法とコミュニケーション能力	北陸先端科学技術大学院大学
14:40-15:10	河本達毅	「主体的学び」時代における大学の質保証とは	文部科学省高等教育局
15:10-15:40	望月久義	大阪経済大学マナーアップ10年間の軌跡	大阪経済大学
15:40-16:10	小出実	トリプルヘリックス分析による産学官連携におけるイノベーション機会に関する研究	東北大学大学院
16:25-16:55	片岡　敏光	イノベーションを推進する人財と組織	株式会社パットブレーン／日本経済大学大学院価値創造型企業支援研究所
16:55-17:25	奥 正廣	サステイナビリティ教養教育の構想に向けて	東京工科大学

B会場

10:00-10:30	澤　聡美	コミュニケーション能力を向上させるための創作ダンスのデザインに関する研究	冨山大学
10:30-11:00	林　美都子	対人不安と創造力	北海道教育大学
11:00-11:30	西浦和樹	食と創造性―女子大学生の食行動からみる今日的課題	宮城学院女子大学
14:40-15:10	佐藤 譲	病院の事務職員に対する創造的な能力開発の試み	榊原記念病院
15:10-15:40	原田 祥	創造技法と3Dプリンタを使用した「ものづくり」の手法の研究	北陸先端科学技術大学院大学
15:40-16:10	國藤 進	イノベーションデザイン教育2015への歩み	北陸先端科学技術大学院大学
16:25-16:55	樋口健夫	創造性教育におけるアイデアマラソンの応用と効果	アイデアマラソン研究所
16:55-17:25	高橋文行	企業経営における情報の価値創造に関する一考察	日本経済大学

10月4日（日）研究発表スケジュール（予定）

A会場

10:00-10:30	櫻井敬三	創意工夫を伴うグループ討議における「教える」と「気づき」の関係性	日本経済大学大学院
10:30-11:00	竹井　潔	ビッグデータ時代のブレイクスルー思考再考	聖学院大学
11:00-11:30	王　珊珊	起業後の初期段階における人材マネジメントの特性に関する研究	日本経済大学大学院
11:30-12:00	中川 徹	USIT：6箱方式をパラダイムとする創造的な問題解決のための簡潔なプロセス － USITマニュアルとUSIT適用事例 －	大阪学院大学

B会場

10:00-10:30	于　溪	東軟グループのプロダクト・イノベーション	近畿大学
10:30-11:00	武　青艶	The Enlightenment of the Development Approach and Characteristics of Japanese Creative Techniques to China	瀋陽建築大学
11:00-11:30	徐　方啓	小米のビジネスモデルのイノベーション	近畿大学
11:30-12:00	上田 宏	30年前の自撮り棒発明と最近の自撮り棒流行	元㈱創造開発イニシアチブ

C会場

10:00-10:30	谷岡遼太	研究室全員で取り組むアイデアマラソン	和歌山大学大学院
10:30-11:00	田村新吾	二宮尊徳にみる創造的問題解決	㈱ワンダーワークス
11:00-11:30	澤泉重一	ベイズ理論上のセレンディピティ	SAM 日本チャプター
11:30-12:00	西尾未希	感動経験構造を用いたコンセプト設計方法論	トヨタ紡織株式会社 慶應義塾大学院システムデザイン・マネジメント研究所

▲▼▲ 2015年7月4日クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会:『日本の教育再生と創造性』

講演者:小粥幹夫　　日本経済大学 特任教授

「光ファイバの実用化に取り組んだ一人の元技術者が、仙台で大震災に遭遇して科学技術の限界、人の繋がりの重要性を痛感し、工学部は文化創造学部たるべしとの師の影響も受け、素人であるが故に見える基本を大切にし、教育の基本に迫り、ハーバード大ガンツ教授の手法を使って教育のイノベーションの道を模索するSelfの物語を語り、共感から共創を呼び掛けた。

多様化した生徒を最もよく知る先生が、多様な個々の生徒の学びを支援する仕組み構築をゴールとして紹介。社会の求める「自立、協働、創造」の力に繋がる学びの意欲の基本に迫りながら、中教審の教育改革の論議でキーワードなっている「アクティブ・ラーニング」の意義や具体例を紹介、第Ⅱ部の対話を通した創造性のワークショップに繋げた。

MOTを学ぶことから始め、創造性に関心を持ち、高校の先生との繋がりから学びの意欲にこだわり、年金生活の中で考えている未来の教育についての思いを、この日は語った。日本創造学会会員に加え一般からの10名を含む36名の参加、充実した中味の濃い議論は、ワークショップや25名参加した懇親会において20時過ぎまで続いた。主体的・協働的な学びは、教育の課題解決に向けた深い学びの方法としてのアクティブ・ラーニングを参加者は実感、教育に止まらない社会改革への思いを共感頂けたでしょう。

その後の中教審の部会も聴講して以下のような可視化図を作成しました。新たな理念の市民への啓発、教育委員会や学校を通した教員への伝達、研修機関等への浸透は大きな課題で、SNS等の新たな社会インフラを活用するデザイン思考によって、新たな方策を創造する必要があり、日本創造学会が重要な役割の一端を担うスタート点となることを願っています。　　（記事 ： 会員 小粥幹夫）

ワークショップ:　『場を創り、価値を生む』

講師:　杉山比呂之　専修大学附属高等学校教諭
講師補助:橋本拓也・吉田亘

「場を創り、場に価値を」をコンセプトに、大学生や社会人の卒業生、地域の方々など、異なる世代と交流をしながら、“コミュニケーション能力”“ファシリテーション”“チームビルディング”“傾聴”といったことを、参加者全員で学ぶ「チーム作り講座」。

今回は高校での授業実践をもとに、橋本拓也・吉田至や現役高校生の協力を経て、参加者全員で場を創り、場に価値をもたらすプログラムを二部構成で展開した。前半はワークショップを創造するうえで大前提となる、テーマとゴールの“みえる化”とチェックインから開始し、グランドルールを提示した。グランドルールは、①場を創り、場に価値を、②お互いの違いを受けいれてお互いを尊重して学び合う、③本日のこの場で一緒になった縁を大切に、という3点を設定した。

自己紹介はアイスブレーキングの要素を含めて、汎用性のある「四つの窓」というプログラムを実施した。ワークⅠは、「マグネットテーブル」(各自の関心のあるテーマを用紙に記入し、それを持ちながら参加者同士が互いの関心を共有し、関心が近い人同士がマグネットのように集まる)を応用して、「暗闇マグネットカフェ」を実施した。関心のあるテーマを記入後、その用紙を身体に貼り、アイマスクを装着。その後、特定の参加者がアイマスクをとり、その参加者が自分の関心あるテーマと近い参加者をブラインドウォークの要領で座席まで誘導してチームを作り、ワークⅠの感想を共有した。

後半は、「烈車戦隊 トッキュウジャーからみるチーム」というレクチャーからスタートした。チームにおける役割や色の持つイメージ、またシックスハット法などを解説したうえで、ワークⅡの「未来新聞」づくりへと移った。ワークⅠのチームで、“未来の理想の日本の教育”についての新聞を作成し、その後プレゼンを行った。平均年齢がいつものサロンより若かったせいもあり、プレゼンは非常に有意義なものとなり、また各チームがクリエイティブな未来の教育を創りあげ、その場に価値をもたらした。ただ、最後の振り返りの時間が十分確保できなかったことは残念で、次回以降機会があれば再挑戦させていただければ幸いである。　　（記事：会員 杉山比呂之）

日本創造学会第2代目会長・恩田彰先生を偲んで

日本創造学会第6代会長　高橋誠

恩田彰先生（2008年講演会で撮影）

◆51年前の日本独創性協会での出会い

私は1962年に東京教育大（現、筑波大学）の心理学科に入学しました。そこで「日立の樹」の作詞で有名な伊藤アキラさんから紹介され、日本独創性協会（CTA）に入会します。このCTAは、日本にブレインストーミングを紹介した、日本初の創造性団体です。学生が中心で会員は東京中の各大学から約200人が参画し、毎年研究大会を実施し、機関誌・週刊誌まで発行していました。このCTAの学術顧問が恩田先生です。私は大学3年の時、CTAの委員長になります。この時から恩田先生とご一緒の創造性行脚が始まります。私は全国の小学校や公民館などで、子供に創造性を教える「動く創造性教室」や「ワンパク発明学校」を企画・実施し、川喜田先生と出会い「紙切れ法」を仲間と共にKJ法と名づけたりもしました。恩田先生にはCTAの研究大会や各種イベントに積極的に関わってくださいました。また先生が監修され明治図書から刊行された「創造性の研究」や「創造性の教育」に執筆させていただきました。これが私の著作の第1号です。その後、私は創造性の研究と実践の両方を目ざし、産業能率短期大学に入職します。そして1974年に30歳で独立し、現在の㈱創造開発研究所を設立します。

◆世界の創造性研究者との出会いと、アジアの創造学会の設立支援もご一緒

恩田先生とご一緒にした仕事に、欧米の創造性研究者たちの日本での講演の支援があります。まず1978年には米国・ジョージア大学のP.トーランス教授が来日します。東洋大など何ケ所かでの講演をサポートしました。トーランス先生は50年にもわたり、50万人以上の子供たちに創造性テストと知能テストを実施し、創造性テストの高かった子どもは、成人して高い業績を上げることを証明した学者です。

1985年には米国・創造教育財団理事長、ニューヨーク州立大のS.パーンズ教授の日本各地での講演を御手伝いします。パーンズ先生はブレインストーミングの考案者、A.オズボーンの後継者で米国の創造性研究者のまとめ役のような方です。そして1986年には英国・オックスフォード大のE.デボノ博士のサポートです。博士は「水平思考」や「「6色ハット思考」で世界的に有名な方です。私は日本のいろいろな企業にも紹介し、一緒に皇居の中も見学しました。また中国での研究大会にもご一緒しました。

1977年には米国・創造教育財主催の「創造的問題解決大会（CPSI）」に恩田先生が会長で「創造性研究調査団」として参加します。比嘉佑典先生もご一緒でした。また1984年には中国で創造学会を創りたいとの要請を受け「創造学交流中国訪問団」を恩田団長で編成、ハルピン・北京・上海などを訪問、ここで徐方啓先生と初めて出会います。翌年には黒竜江省の研究者たちを招聘し、現在では世界最大規模の中国創造学会を誕生させる支援のスタートです。このように、海外との様々な創造性交流をご一緒に推進してきました。

◆日本創造学会の設立以来、日本の創造性研究の発展を目指してご一緒に邁進！

日本創造学会は1979年の創立です。私は恩田先生とご一緒にその設立に参加。最初の事務所を公文研究会の公文公会長にお願いし、部屋をお借りするお願いにもご一緒でした。初代の会長は川喜田二郎先生、そして2代目は恩田先生です。私は1981年に理事になり、2002年に理事長、2005年に6代目の会長になり、現在も理事の末席を汚しています。恩田先生とご一緒に過ごしたこの日本創造学会での35年は、私の創造性の研究の軌跡でもあります。おかげで単著30冊、編著・共著を入れると77冊も出版することが出来ました。これも恩田先生の編著に最初の論文を出させていただいたことがスタートです。

恩田先生、どうか安らかにお休みください。創造性研究の篝火はこれからも私たちがしっかりと受け継いでいきますから。

～恩田先生を悼む～

日本創造学会副会長　徐 方啓

恩田先生が亡くなられた悲報を知り、大きなショックを感じました。

私は恩田先生の門下生ではないが、創造性研究のイロハから学んだのは恩田先生のおかげなので、心の中でずっと恩田先生を恩師と見ていました。

1984年8月、私は中国創造学会準備委員会事務局長として上海で日本創造学会訪中団を迎えた際、初めて団長を務める恩田運営委員長にお目にかかり（写真参照）、その威厳と優しさが併存する学者風貌に惹きつけられました。その時の中国には創造性研究に関する文献がほとんどなかったので、時々恩田先生に資料の寄贈をお願いしました。先生は毎回著書や資料を送ってくださいました。今でもはっきり覚えているのは、私の創造性研究に関する啓蒙書は、恩田先生の『創造性の開発』（野村健二との共著、1964年刊）です。

筆者と恩田先生
（1984年8月）

恩田先生の著書を拝読して、私は中等教育の現場で創造教育の実践を独自で模索しながら始めました。途中、様々な困難に直面した時、敢えて恩田先生に質問しました。先生はいつも丁寧に解答してくださって、本当に助かりました。とりわけ、私の創造教育の実践で効果が出て、中国のマスコミに報道された記事を恩田先生に報告したら、先生はわざわざ日本創造学会の「ニューズレーター」に私の実践を紹介する記事を寄稿して下さいました。（1985年3月31日号）。

来日後も、相変わらずいろいろお世話になりました。専門を選ぶ時、先生からアドバイスをいただき、アメリカへ創造性研究の留学に行こうとした時は、先生は英文の推薦状を書いてくださいました。博士号を取得した際には、お祝いが届きました。私は恩田先生からいろいろな恩恵を受けましたが、なかなか恩返しができなくて本当に悔しくてなりません。今後、唯一可能なことは、恩田先生のように学問の研究に身を投じ、人格の陶冶に努め、立派な学者になるよう頑張っていきます。恩田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

（申込順）

※個人情報が含まれるため、WEB版では削除しました

大会参加申込について

このNewsletter配信時に大会参加申込書（Excel File）を添付致しました。
参加予定で、まだお申し込みがお済みでない方は、申込書をご記入の上、9月18日までに事務局までお申込み下さい。（送付先は下記↓参照）

事務局メッセージ

今大会は注目されている大学と輝いている企業から２人の講演者をお招きします。わくわく大学きらきら企業という大会テーマは女性会員の発案です。頭を柔軟にして創造的な大学と企業について学びたいと思います。
２日目には最新鋭の発想法が体験できる３つのワークショップも開催されます。秋の大阪で新しい知との出会いを！

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2015年9月発行（№3）
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp